



尚操



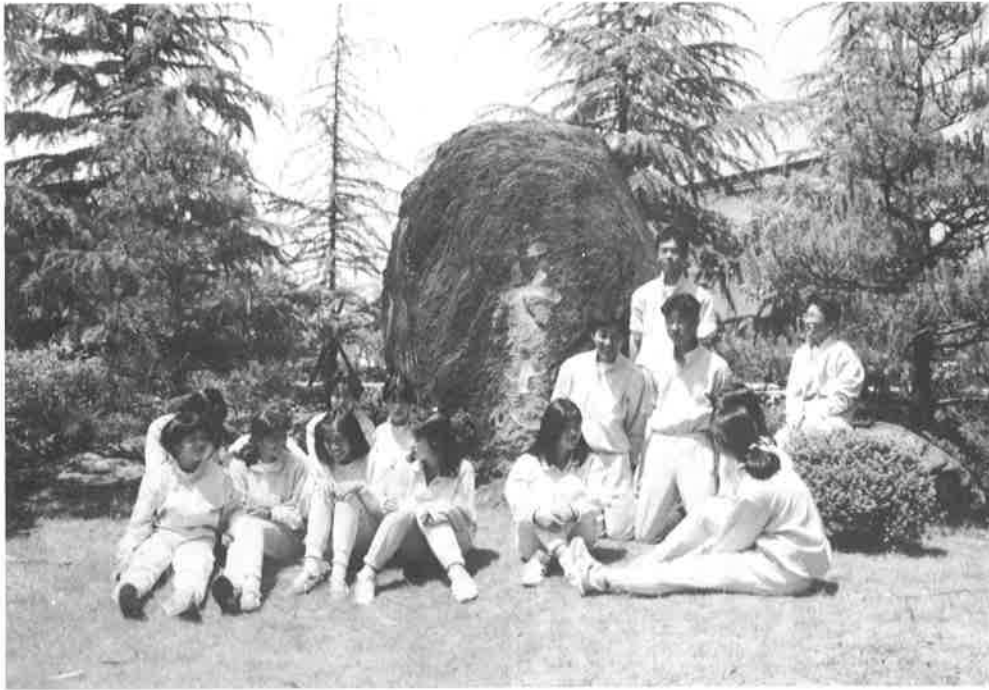
〈発行所〉

鳥取県立倉吉西高等学校
尚操会

〒682

鳥取県 倉吉市秋喜20
倉吉西高等学校内

印刷 (有) 矢積印刷



生徒憲章をもとに 志操を尚ぶ 西高生でありたい

創立七十周年記念の植樹がしっかりと根を張り、「緑にかこまれた学園」になっています。石碑に刻まれた「立志」に象徴されるように、六年目を迎えた生徒憲章の精神も着実に根をはり進展しています。そして倉吉西高に集う志操を尚ぶ生徒たちが新しい西高の校風をつくっています。

思い起こしますと、松本重徳元校長、高多彬臣前校長により、いろいろ西高教育が創造されました。西高ルネッサンスの新时代の柱となった「生徒憲章」「英語コース」「ふるさとラリー」等、今では西高の新しい校風になっています。

今、教育界では新しい学習指導要領により「心豊かな人間の育成」「自己教育力の充実」「国際理解の推進」等の内容が提示されています。六年前に生まれたこの生徒憲章の精神が、今後の日本の教育の指針として証明されたといっても過言ではないと思っています。ただこの精神をどのように定着させ、実践し続けていくかが今後の大きな課題です。

今後、西高生がこの新しい校風のもとで、この学園に学んでよかったと誇れる学校になるよう努力する所存です。中島尚操会長をはじめ倉吉西高卒業生の皆様のご鞭撻、ご支援をお願い申し上げます。

(学校長 青目 正)

花・水・木

我が倉吉西高も四年後に八十年を迎えようとしています。この会報「尚操」も八号になりました。昭和五十八年の第一号から平成元年の第七号までタイトルに表わされているように、年とともに学校も移り変わってまいりました。▲自由な思想を取り入れた「西高ルネッサンス」のはじまりの様子(第一号) 母校にみどりの風の贈りものがあつた七十周年記念事業の様子(第二号) 西高文化の旗あげをめざした学園祭の様子(第三号) 生徒憲章のもとに新しく前進する母校の様子(第四号) 国際化時代にふさわしいアジアの若人フィリピンの高校生との友情の交流の様子(第五号) 地球人意識を育て、未来を開く創造性あふれる母校の様子(第六号) 先輩の平和への想いを今に生かそうと国際理解や平和教育を推進する様子(第七号) ▲さて、八十周年に発行される第十二号ではどんなタイトルになるでしょうか。こうしてみると母校は、倉吉時代の約四十年、西高の四十年を経て今や若返りの時代に入っています。勢いのある西高、学園の誇りをもつ西高の時代です。新しい西高の卒業生の皆様、母校に目を向けて同窓の意識を高めていただきますように。(西高一回 道祖尾篤彦)

私の住む町

熊本県八代市

終戦後ハルビンから主人の実家に近い八代に居をかまえました。ここ八代は三大急流の一つ球磨川

西から 東から 同窓生だより

が山中から発し八代海に入る最終地点でもあり、小高い山に囲まれて静かな城下町でもあります。小西、加藤、松井氏と受け継がれ栄えてきた歴史を持っていきます。謎の火として古くから伝説に残されてきた不知火で有名な所でもあります。人口十一万の工業都市、農業も盛んでイ草の産地日本一です。郊外に行きますと広々と青い田が広がっています。やがて暑い夏が来ますとイ草刈が始まります。新鮮な魚、野菜、冬にはみかん、晩白柚、ザボンの産地でも知られています。今の時季にはみかんの花が咲き、風に乗って甘い香水のようないい香を漂わしています。近くには五木の子守唄で有名な五木村、平家の里、五家の荘、秋は紅葉で美しくすばらしい景観です。港に行きますと天草の鳥々が目の前に見えて当地から連絡船で四十

分位の所に在ります。小さい島々が五つの橋で結ばれていて今では全部の島を陸から渡れるようになりまし。昭和六十二年に中島先生を迎えて二十四期生のクラス会を博多で開催。長崎、雲仙、天草迄足をのばして頂き修学旅行のようない気分です。遊覧船で五橋巡り、皆様に大変喜んで頂き、思い出に残るクラス会になりました。電車で一時間、人吉に着きます。霧の深い町で球磨川にかかる橋がボツボツ浮かび川岸の温泉宿が霧の彼方に見えていい所です。球磨川下りが五木の子守唄と共に船の気分をかき立てています。二時間半かけて下って行きます。その間何度か肝を冷やす場面もあり船頭の腕に頼るしかありません。娘時代を過ごした倉吉よりもはるかに長い年月が過ぎてしまいました。老人パワーを発揮し何事にもチャレンジしています。

最後に、九州地区の尚操会発足が一日も早く実現する事を希望します。(倉女二十四期生 片桐松枝 (旧坂田))

尚操会 関西支部

京都地区の懇親会

昨年関西支部が再発足して、一年になりました。その後京都で一度と声がかかり、私達幹事六名は準備にかかりました。期日を六月三日(日曜日)、菅原道真公がおまつりしてある、新緑の北野神



社のそば、「紅梅庵」を選びました。最高齢は倉女七回の木村照子さん(旧姓、徳岡)八十六歳、若手は西高二十三回の森岡京子さん(旧姓、古林)三十二歳までの尚操会員の集りでした。また遠路わざわざ倉吉から永江重昭教頭先生がお見えになりました。とても楽しみにしておいでになった中島会長さんが、ご病気のために姿が見えなかったのは残念でした。

「ゴメンヤス」といって入って来られても、お顔も見たことのない人ばかり、受付で名簿と合せるに参加者は倉女十六名、西高十六名の合計三十二名。掛軸やお床が古都とじっくりマッチした二階の静かな部屋で、川口会長(倉女二十八回)のご挨拶と木村照子さんの乾杯の音頭で始まりまし。

一人一人の自己紹介で、私は里が橋津でとか、伊木とか、倉吉の明治町などと言われると、あの学校へ通っていた頃を思い出して、郷里の山・川がなつかしく、倉女、西高へと逆戻りして、皆一緒に教室へいるような気がして来ました。歌もふるさと・貝がら節・安来節と皆一緒に歌い出し、最後に倉女の校歌、西高校歌を合唱すると、想いが胸にこみあげて涙さえにじむのでした。

いつの間にか三時間が過ぎ、ほろ酔いかげんで記念写真をとる。今日の楽しさを足場に、明日への希望と健康を祈りつつ、また逢える日を楽しみにお別れしました。(幹事 西高一回生 朝倉佐美子)

いざ鎌倉!!

東京 武蔵村山市

昨年夏の「尚操」を見て胸が一杯になりました。私達も三年生の時から終戦迄、工場で働きました。朝五時に起き、真暗な雪道を列を作って歩いていく鉢巻、モンペ姿の少女達、火の気のない教室で油じみた作業衣に着替える時のゾツとする冷たさ、六時始業開始のベルと共に唸る機械に触る時の底知れない無限とも思えるヒヤッとした感じ、真黒な油、流れ作業で次々出来る砲弾、広い工場内にダマのように今もありありと目に浮かびます。そんな中でも、週に何回

か授業がありました。松井賢太郎先生の俳句の時間でした。麦の穂も出揃いにけり 公休日 タキ 春の月シンの上の 作業服 ちま子 面上げし目にしみ透る 青葉かな 最後の一句は私の作ですが、旋盤に向かっていてふと外を見ると、青葉若葉がキラキラと目にまぶしい位輝いていて、そんな情景でした。食べる物もない、空腹に明け暮れた十五、六才の私達です。先日、久し振りに鎌倉いたしました。一人一人が明るくて活動的で、地域社会のことはもとより、友達同志お互いに啓発しあって、その生き生きパワー振りにはすっかり圧倒され、楽しくて女学生時代に帰ったようにワクワク、うきうきしてしまいました。この大きなパワーは極限状態を体験したからかしらと思ったり致しました。あんまり羨しくていつそ倉吉に帰ってしまおうかしらと本気で考えたことでした。皆様には、本当にお世話様になりました。心から厚くお礼申し上げます。また、お逢い致したく存じます。

何やら東京尚操会再発足の動きがちらほら耳に入ります。その節は是非お声をかけて下さいませ。いざ鎌倉と馳せ参じます。(倉女三十二期生 小谷温子(旧早川))

一枚の葉書

東京 杉並高円寺

昭和二十九年九月再起を期して
 上京、何の資格でもよい一人立ち
 出来るものならば……とまず東亜商
 業高校（現在の東亜学園）併設の
 山脇服飾美術学院新井薬師分院に
 入り編物でもして……と真剣に取り
 くむうち知人も少しずつ増え三十
 年暮には年賀状を投函し帰郷列車
 に乗りました。翌三十一年正月東
 亜商校本宮先生（現在学園校長本
 宮先生の御父上）より、この年賀
 状は貴女が御自分でお書きになっ
 たんですか？「ハイ」……それより
 一ヶ月後本宮先生より「貴女うち
 の書道をやってもえませんか、



倉女29期生関東在住者

僕がいいと言えは良いのですから
 ……それからは夢中でした。大学に
 編入試験で入り山崎節堂教授に個
 人レッスンを受け、教えながらこ
 の秋より「日展」に四年連続で入

選し、この道一筋にと思っている
 矢先、母よりいつまでも一人で行
 ると親は安心出来ない……との便り
 に書家の友人の紹介で、ひのや（高
 級呉服専門店）創業者の主人と結
 婚し昼は商売夜は書道でも教えて
 ……と思っていました。が昼も商売、
 夜も商売の多忙な明け暮れに早三
 十二年の歳月は夢のように過ぎて
 参りました。その間三十八年より
 倉女二十九期生関東在住者（全員
 十四名）クラス会を十二回開かせ
 て頂いて居ります。その中で四十
 九年二月四国の篠原先生より是非
 参加をとのご連絡を頂き早速上
 京頂き私共で開かせて頂きました。
 先生には教員生活最初の教子さが
 私共倉女生で一番印象深く懐しさ
 ひとしおで大変喜んで頂きました。

五十一年には一人息子の嫁を米子
 市より迎え三人の孫に恵まれ、安
 心で平和で幸福かなとチョッピリ
 うぬぼれても見る昨今です。
 これもひとえに倉女時代の諸先
 生のご指導のたまものと深く感謝
 いたしております。今後西高のま
 すますのご発展と充実を心よりお
 祈り申し上げ、尚操会関東支部再
 開の実現を願って筆を擱かせて頂
 きます。（倉女二十九期生
 前澤佳枝(旧大田)

打吹の緑は

今も濃く

湘南藤沢市

常に戦争の重みを背負った私達
 の青春は、一日に何回も駆込出征
 兵士を見送る事と、千人針を縫う

時間が多い時代でした。映画館で
 は先生に見張られていたり、服装
 検閲も厳しく私など手帳も時に読
 まれたりしたので、一寸不服だっ
 たのですが、反抗もせず柔順だっ
 たのは今思うと不思議な位です。
 たの今思うと不思議な位です。
 汽車通学も、中学生と女学生は全
 く車両が別で、中学生と話す所な
 どを先生に見付かれれば、すぐ校長
 室に呼ばれてしまうのでした。倉
 女の校風は地味で厳格でしたが、
 大変暖かく生徒を見守って下さっ
 た諸先生のお教えは、生徒の気持
 ちを明るくしてくれましたし、打
 吹の四季変らぬ濃い緑が、私共を
 戦争の暗雲から救ってくれたのだ
 と思います。私が園芸部で南瓜作
 りや、菊の挿芽を覚えしたのは良い
 経験であり、学校の田んぼで手作
 りした新米を、校長先生とご一緒
 に皆で食べた喜びも生涯忘れられ
 ない事です。

私が関西に移り住んだのは万博
 の年からである。千里に十年、こ
 こ寝屋川で六年、賃貸、分譲と移
 っても、タテヨコ長屋ぐらしが続
 いている。現住所も緑に恵まれて
 いるのだが、故郷の家は森林浴百
 選の一つ、倉吉市打吹公園から七
 十米のところである。

ある。
 城山の裏は、そのまま中国山脈
 に連なり、雪も程々に降る故か、
 留守宅の前裁も水の遣り手も無い
 のに枯れもせず、毎年五月の連休

随想

ふる里余情

倉女二十四期生 山柁康子

公園と言っても室町時代のお城
 山で、杉柁山柁等、どれも大木
 でそれぞれの木に歴史を感じさせ
 られる程だ。
 ぐるりを山にかこまれた人口五
 万の小さな城下町の旧市内は、大
 方が京都の町家のように間口はせ
 まく奥行二十間のうなぎの寝床で

に返ると、礎草の淡紫、大山都志
 れの白い花などが可憐に咲いて主
 を迎えてくれる。時季になると紫
 陽花も見るとは無いまま、ひっそ
 りと咲いていることであろう。夏
 には水引草やピンクの秋海棠が咲

ある。倉吉市のみならず、鳥取県
 下全ての水道は伏流水地下水で、
 水の甘さは万人の認めるところで
 ある。帰阪の際はその水をポリタ
 ンクに汲んでくる。
 一級河川の小鴨川、竹田川に挾

いて坪庭でも、ささやかな茶
 花にはことかかない。
 年に幾度か掃除掃省するが、先
 ず水道の栓を開け放ち、コップ一
 杯の水に故郷を実感出来る幸さが
 まれての伏流水は三か月かかって
 まるやかな地下水となり汲み上げ
 られるので、一年中で一番冷たい
 のは一月二月に降った雨や雪をし
 みこませた四月五月の水だそうで
 あるが、真夏の水も冷たくてガラ
 スコップがくもるくらいだ。
 山陰本線は単線のままながら、
 中国縦貫道と人形峠にトンネルが
 出来て車で五時間ばかりと、少し
 時間が短縮された。
 水のこのうまさをもいつまでも保
 って欲しいものだ。



最後にその人の歌った韓国民謡「
 アーリラン・アーリラン・アーラ
 リョオオ…」の哀切な歌声が妙に脳
 へ四ページ後段へ

母校はいま……

躍動と感動の 西高祭

七月七日から三日間、第二十三回西高祭が「躍動」をテーマに開催されました。

初日は開祭式に続いて弁論大会、西高の現状を見すえながら真面目な発表が展開されました。にわか雨直前のむし暑さの中、全員象徴物をかっついで市内パレード、終わってチームPR、ファッションショー等のプレフェスティバル。珍妙奇抜なファッションに館内は湧きました。

二日目の午前はチーム毎、演劇部の舞台発表、例年通り職員演劇の迷演戯に大喝采。午後はバザー、模擬店、コンサートで興奮のつば。デコレーションでは、執行部の倉吉紹介のパネル展、家庭クラブの「制服を考える」、人権学習の成果を展示と発表で問う解放研JRC・英語部共催の「世界の教科書の中の日本」展などは、見応えのある真剣な取り組みでした。三日目は予選を勝ち抜いた九チームによるさわやかな合唱コンクール、銭太鼓・さいとりさし・社太鼓等の郷土芸能でユニークな西

高祭ムードを盛りあげ、午後の自由活動を経て最後の饗宴グランドファイヤーで青春を満喫しました。

恒例の火文字は「PASSION」
庄巻は八発の花火打ち上げ。まさに躍動と感動の三日間でした。



公立大の受験をし、その結果、今春のこのセンター試験は、過去最高の42万人が受験しました。

進学

制度改革下、奮闘す

改正を重ねながら11年間続いた国公立大の共通一次試験は、2年度(今春)入試より「大学入試センター試験」と名称を改め、16の私大も含めてスタートしました。私大を含めたことから受験に必要な科目は、一部の大学では4教科以下でもよしとなり、従って、私大専願者でも受験科目の合う国

就職

就職戦線異常あり

相変わらずの好況、人手不足で七月に入って続々と県内外より求人に見え、また求人票が郵送されて、二百五十社に及んでいます。ところがそれに対する就職希望者が極めて少なく、現在のところ県内外男女合せて二十名を切り、その上地元志向も強く、県外が五名と激減しています。高校が義務教育化し、より高等教育への志向が強まるとともに、生活が豊かになり、余裕が出て来たためでしょうか。

本人の特性を生かすことが勿論第一ですが、「金の卵」どころかダイヤモンドの状況に、求人に対応しながら係としては淋しい思いもします。

逆に安定を求めて公務員希望は増加し三十名を越えています。全体として応募者減少の傾向にはありますが、競争率も高いことが予想されます。

**平成2年度尚操会
総会あんない**

と き 8月19日(日) 10:00~

ところ 倉吉シティホテル
TEL 26-6111 (代)

会 費 ￥2,000

お誘い合わせ、多数のご参加をお願いします。

活発な クラブ活動

想され、楽観は許されません。いずれにしても選考試験に向けてこの夏は最後の追い込みに入ります。目標達成のために、周囲も激励、応援をお願いします。
(金居晋一郎)

去る六月二、四の三日間に行われた県高校総体で各部ともよく健闘しました。弓道部女子団体・個人優勝、剣道部男子団体優勝、空手女子個人組手・型優勝、さらに陸上競技部女子は中国大会の四百米リレーで三位となり、以上の各部は七月三十一日から仙台市で開催されるインターハイに出場します。文化部関係では、音楽部が県高校総合音楽会で上位入賞、放送部がNHK放送コンテストに、演劇部が県大会出場となっています。裏に残っていて、よく思い出します。以来私は、その人の奉仕精神を受けとめて、湘南藤沢市北部の高台に『臬コレクション展示館』を開いたのです。全国から訪れる未知の方と臬を語り、「臬の住める自然を守り育てましょう」と話している、旧知のような親近感が湧きます。なお、平凡社刊八月号(臬特集)に臬館が紹介されます。(七月十一日発売)。
(倉女二十五期生 福本逸子)